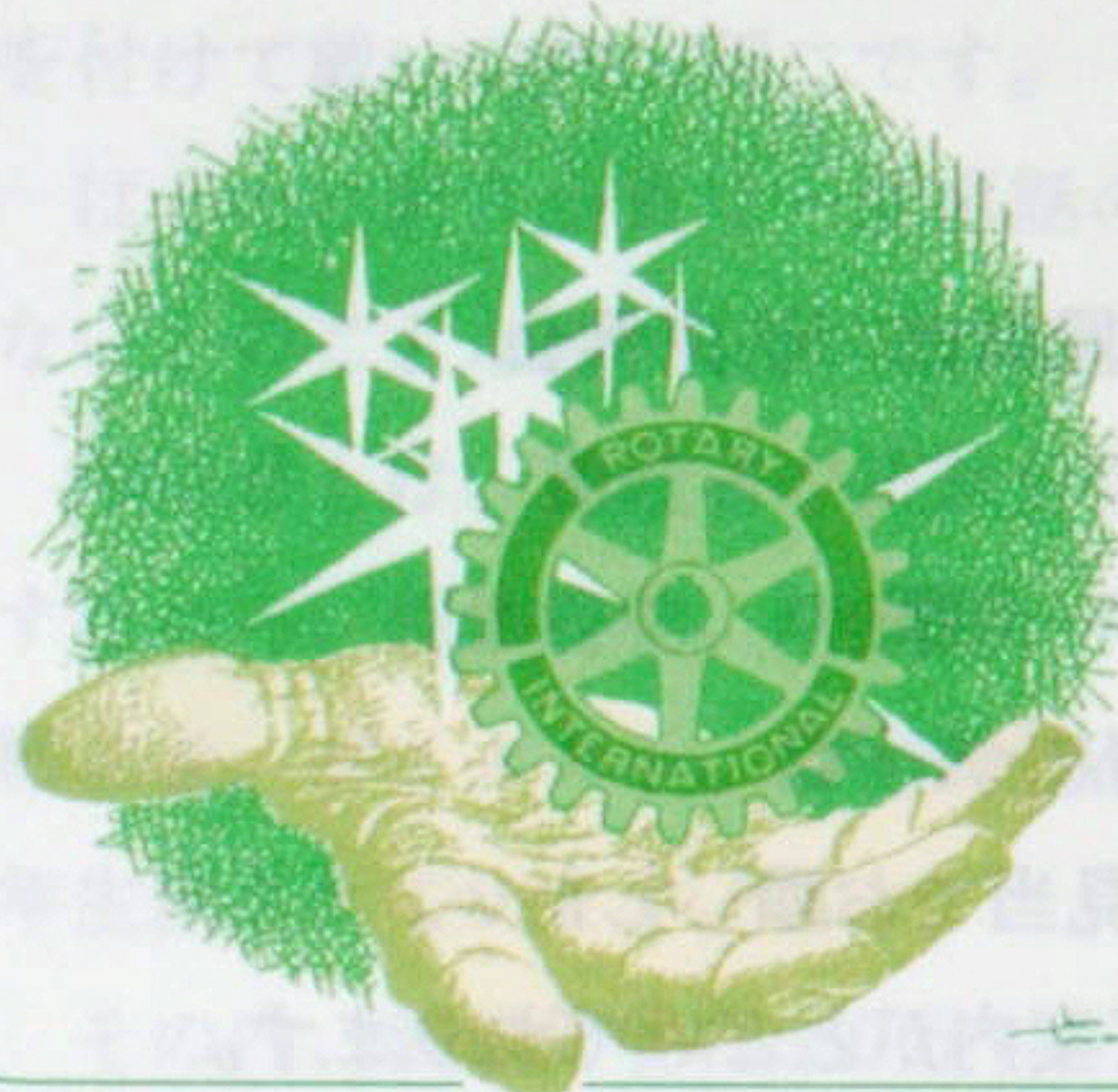


VALORIZE ROTARY  
COM  
FÉ E ENTUSIASMO



## ロータリーを高めよ 思いを尽くし熱意を尽くし

1990-91年度国際ロータリーのテーマ

- 国際ロータリー会長 パウロV.Cコスタ ●第256地区ガバナー 原 猛
- 会長——小林九満太 ●副会長——渡辺 宏策 ●幹事——斎藤 弘文
- SAA——渡辺 喜彦、五十嵐 力 ●例会日——毎週水曜日 12:30～
- 例会場——三条市旭町2-5-10 三条信用金庫本店 TEL 34-3311
- 事務局——三条市旭町2-5-10 TEL 35-3477 (FAXも同番号 午後3時以後はFAXに切り替わります)
- クラブ会報委員——渋谷 正一、金沢 興宗、木許 絃一

出席者会員数	会員 76名中 51名
先々週出席率	90.67% (前年同期 91.32%)
今日のお花	桔梗
ヴィジター	三条南より 野島廣一郎君、中川賢一君、三原徹夫君、 田中正佐久君、山崎 昇君、葦沢喜一郎君、 金子六郎君
先週のメイクアップ	7/16 三条南へ 近藤雄介君、榎本 勝君、小林敬典君、 石橋育於君 7/17 三条北へ 野村竹三郎君、中村和彦君、小林敬典君、 五十嵐力君、加藤紋次郎君、濱 潔君、 石橋育於君

### 会長挨拶 小林(九)会長

梅雨末期のうっとおしい日々が続いております。健康には充分ご注意ください。

1週間後の25日には、西ドイツから夏期交換学生として2名の兄妹が参ります。

ホームステイをお願いする堀川会員と渡辺国際委員長宅には大変なご迷惑をお掛けする

こととなりますが、皆様も出来るだけのご協力をお願いします。

幹事報告 齋藤(弘)幹事

◎例会変更のお知らせ!

燕RC——7月26日(木) PM6:30~ 於 明治屋新館 納涼例会

見附RC——7月26日(木) 見附祭りの為休会

8月22日(木) PM7:00~ 於 パトーナ暑

◎原ガバナー事務所より イラン地震援助金の協力要請について

∴ガバナー会より協力要請があり、お1人1,000円見当でお願いしたい。

◎原ガバナー事務所より 第4回ライラ委員会開催のご案内がとどいております。

とき 7月28日(土) PM15:00 ~ 18:00

ところ 三条ロイヤルホテル

ニコニコボックス ¥14,000

野島廣一郎君 (三条南クラブ)

久しぶりにメーキャップをさせていただきます。昨日、一昨日と杉野さんに北海道でお世話になりました。

小林(九)君

うちの愚息が監督をしている三条J.C野球部が県と北陸大会に優勝し全国大会に駒を進めることになりました。

藤村君

この度、秋田県の大館に転勤することになりました。色々とお世話になりました。

杉野君

涼しい北海道で楽しんで来ました。此の例会場の様にとっても爽やかでした。

堀川君

私の長男がお蔭様でいよいよ交換学生として来月出発します。何かとお世話になりますが、よろしくをお願いします。

内山(昭)君

卓話の“しごき”を戴き感謝致します。

丸山君

内山さんの卓話に感謝して。

藤田(紘)君

早退させていただきます。

卓話 内山昭二会員

私は4月に小林(前)会長から、ロータリーの会員バッヂを付けて戴いた内山昭二です。

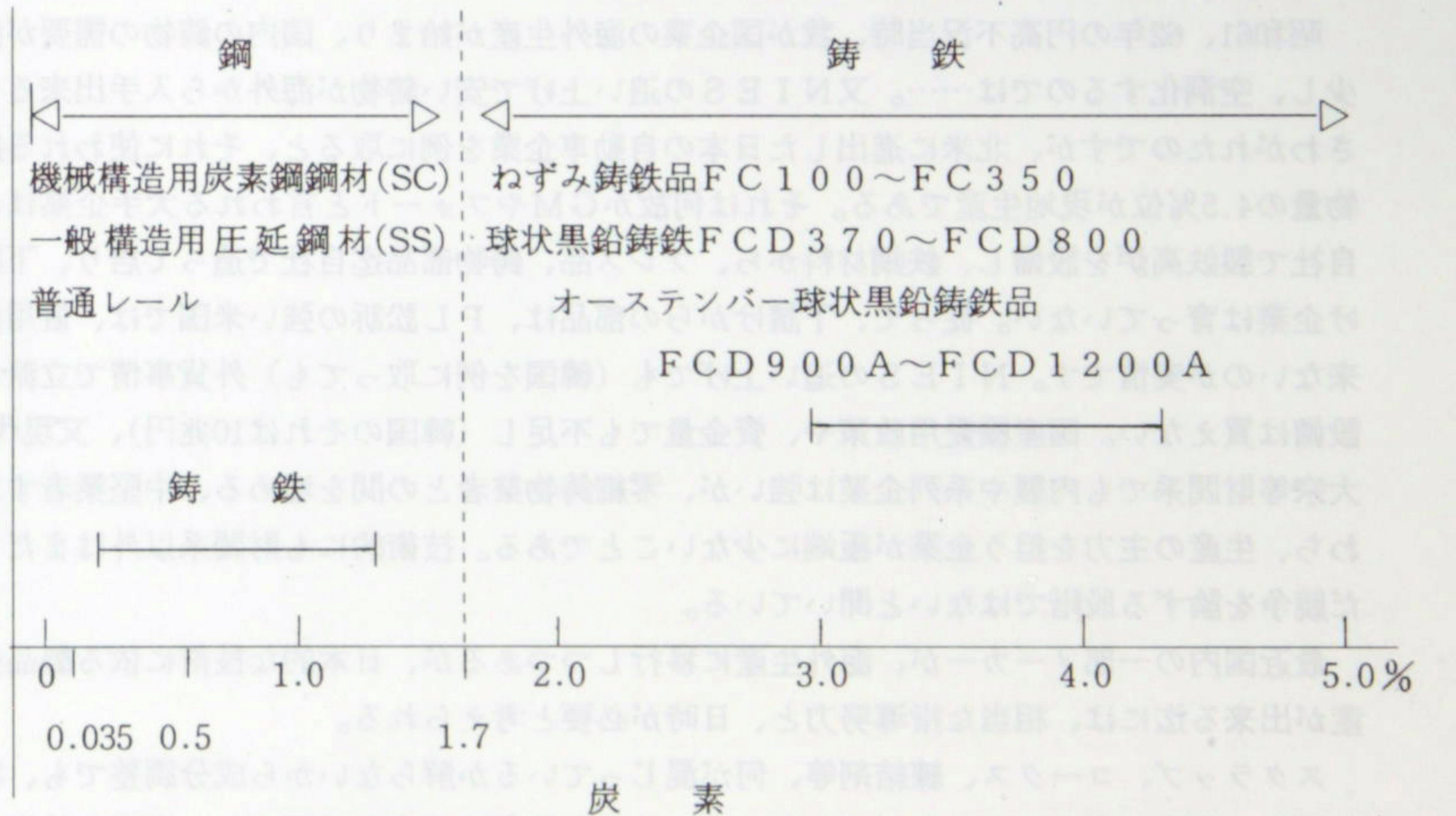
はじめに新入会員は一度卓話の義務を果さなければならぬとのことなので、鑄物の話をさせていただきます。

鑄造品とは、通産省の統計分類では、下記の8分類で、すなわち、鋳鉄鑄物、鑄鉄管、可鍛鑄鉄、鑄鋼、銅合金、軽合金、ダイカスト、精密鑄造品等で、これは800万トン/年生産されています。

その内、鋳鉄鑄物は550万トン/年で近くの三星金属では30万トン/年(推定)。

鉄鋼メーカーの粗鋼は11,000万トン/年です。大よその生産量の判断をして下さい。

鉄と鑄物の違いですが、鉄(鋼)や鑄物に含まれている、不純物、炭素(C)、硅素(Si)、マンガン(Mn)、磷(P)、硫黄(S)等の含有量の違いで、その内の炭素(C)が主に材料の性質を左右することから下図の如く炭素の含有量の0.035%~1.7%の範囲を鉄として、それ以上5%位迄が鑄鉄の量域としている。



鉄(鋼)は我々の生活に最も身近な存在です。業界ではSC材、SS材と呼んでいて、SS材は建築、橋梁、車輛、船舶等の一般構造物等広範囲に使われており、フライパンや家庭内の器物もそれである。

鑄鉄には、ねずみ鑄鉄品1種から6種で、球状黒鉛鑄鉄品(ダクタイル鑄鉄とも呼ぶ) 0

種から6種迄で7段階であり、1平方ミリメートルの引張り強さで区別されている。

鋳物の特徴ですが、先ず形状の自由度です。主として砂型で、空洞を造りそこへ溶かした金属を流し込んでやればどんな形も出来るのが特徴です。

次に機械的性質ですが(鋼材と比べて)吸収能(たたいた時の響きを吸収する性質)、耐え摩耗、耐食性(さびない)、被削性(削りやすい)等で、欠点はぜい性破壊の違いで、鉄は力を加えると曲がるが、鋳物は割れる。

#### 各種鋳物の代表的使用例

(FC100 FC200)

ストーブ、エクステリヤ、マンホール蓋。

(FC250 FC350)

工作機械、印刷機械、プレス、産業機械、自動車部品、射出成型機、エンジン等。

(FCD370 FCD800)

建設機械、産業機械部品、クランクシャフト等で強度の必要な部品。

(FCD900A FCD1200A)

射出成型機、建設機械、橋梁等の部品で鍛造品以上の強度が有り、熱処理により高強度を得る、特殊用途品。

#### 業界の現状と展望

昭和61、62年の円高不況当時、我が国企業の海外生産が始まり、国内の鋳物の需要が減少し、空洞化するのでは……。又NIESの追い上げで安い鋳物が海外から入手出来るとさわがれたのですが、北米に進出した日本の自動車企業を例にとると、それに使われる鋳物量の4.5%位が現地生産である。それは何故かGMやフォードと言われる大手企業は、自社で製鉄高炉を設備し、鉄鋼材料から、プレス品、鋳物部品迄自社で造って居り、下請け企業は育っていない。従って、下請けからの部品は、PL訴訟の強い米国では、信用出来ないのが実情です。NIESの追い上げでも(韓国を例にとっても)外貨事情で立派な設備は買えない。国産機愛用政策や、資金量でも不足し(韓国のそれは10兆円)、又現代、大宗等財閥系でも内製や系列企業は強いが、零細鋳物業者との間を埋める、中堅業者すなわち、生産の主力を担う企業が極端に少ないことである。技術的にも財閥系以外はまだまだ競争を論ずる段階ではないと聞いている。

最近国内の一部メーカーが、海外生産に移行しつつあるが、日本的な技術に依る製品生産が出来る迄には、相当な指導努力と、日時が必要と考えられる。

スクラップ、コークス、練結剤等、何が混じっているか解らないから成分調整でも、我が国と2桁違う事をやらなければならない。そんな技術は日本に必要でない高度な技術である。

• 此の様な事から、産業の基礎となる鋳物造りには、"まごころ人材"の確保が大きな問題である。

鋳物は不良率が高い、日本の車メーカーが必死の品質管理をやっても、0コンマ何%の不良が出てしまふ、ちょっと手を抜けば、すぐ数%と不良になる性質のものだ。

鋳物の品質を決めているのは、ノートや本に書かれた知識ではない。書かれた知識ならアメリカでも発展途上国だって同じレベルだ。違っているのは、各作業工程で注意深く観察し、「何故かな」「ちょっとまずいかな?」と思うことや、創造性が発揮される職場である、現場作業員や技術者同志が教え合い、学び合うかどうかである。

此の点では日本人は立派で日本の真似できる国も恐らくない。自信を持って頑張っていく業界と思う。

最後に我々業界は、企業間の融合化を図り、売価の商習慣(重量kg取引)の変革をやらねばならない。

